

S-KYT (消防団危険予知訓練) 研修を実施して

広島県北広島町 危機管理監
主任 大本 賢一郎

1 はじめに

「苗取り上手が苗をとるを見やれ

水もゆるがぬ苗をとるを見やれ」

初夏の青空の下、豊作と安全を願い、花鞍にのぼりを立てた飾り牛、緋の着物にたすきを掛けた早乙女たちが、歌や囃子に合わせて田植えをする美しい光景が広がります。

2011年にユネスコ無形文化遺産に登録された「壬生の花田植」は、北広島町に夏の訪れを告げる風物詩です。花田植や神楽など、北広島町では地域に根付いた伝統芸能が数多く継承されています。

北広島町の人口は約2万。中国縦貫自動車道と中国横断道がクロスする、中国山地の中央に位置します。巖島神社、原爆ドーム、石見銀山、壬生の花田植などの世界遺産と大自然に囲まれた豊かな町です。



早乙女たち



町内にある大朝のテングシデ群落

2 北広島町消防団

北広島町消防団は、町の面積としては中国地方一である、646平方キロメートルの広大な町域を管轄しており、14分団39班で構成され、現在762人の団員が所属しています。

近年は高齢化が進み、消防団活動が火災時の消火や火災予防啓発のみならず、自然災害発生時の水防活動や避難誘導、救助活動、行方不明者捜索など多様化しているため、地域防災の要として消防団へ寄せられる住民の期待は、年々大きくなっています。

3 S-KYT 研修の必要性 (経緯)

消防団本部のなかでは、幹部団員の危機管理能力の向上や一般団員への安全管理の徹底のため、以前から危険予知を目的とした訓練を活動指針として掲げていました。

昨年の年末警戒実施中に、消防車両の軽微な事故やヒヤリとした事案の発生が報告されたことを受け、団員の危険予知意識の改善を図ることが急務であると、消防基金に相談を持ちかけたところ「S-KYT 研修 (4時間コース)」を提案いただき、早速に3月の春季訓練として実施する運びとなりました。

4 S-KYT 研修を実施して

平成25年3月3日(日)午前9時から北広島町消防団として初めての取り組みとなる、「S-KYT 研修 (4時間コース)」を北広島町役場本庁舎 (100名) と北広島町大朝保健センター (60人) の2会場で同時開催しました。

訓練開始当初は、参加者を所属分団に関係なくシャッフルして班編成をしたため、班内での雰囲気

気も今一つでしたが、S-KYT 指導員の方の熱心な説明により、「指差し呼称」や「タッチアンドコール」の声が、時間がたつにつれ、活気を帯び会場に大きく響き渡るようになりました。

また、教材の DVD や解説で訓練の意義や、危険予知の重要性への理解度が高まるにつれ、参加者の顔つきが変わってきたように感じました。加えて教材がホース搬送時や水防活動時など身近なものであったことも、より熱心に取り組めた要因ではないかと思えます。

後半の班ごとの実技及び発表では、開始直後のよそよそしさがうそのように、それぞれの班が、本音で活発な意見を交わしていました。最後の全員による「指差し唱和」で参加者の達成感と研修会場内の活気は最高潮に達しました。

5 おわりに

研修会終了後に参加団員が記入したアンケートを読んでみると、危険を予知し、回避するための団員間の意思疎通がこれまで不足していたことと、今回の訓練で習得した「指差し呼称」は、単純な動作ですが、意識の共有を図る有効な手段であるとの感想が数多くありました。また、消防団活動のみならず多くの場面で活用できるとの感想もありました。

このたび行った「S-KYT 研修」を通じて、「危険感受性を鋭くする」、「消防団のチーム風土をつくる」という2つの大きな成果が得られたのではないかと思います。これらは、北広島町消防団にとって大きな財産となったと確信しています。

